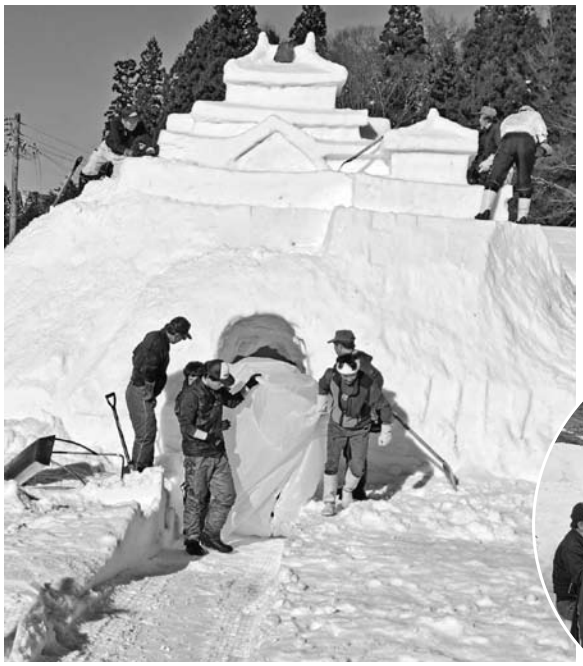
野田沢公民館主催

野田沢庭先キャンドル祭り



メイン会場のかまくらと、
準備に集まる多くの住民

野田沢公民館　主事
阿部晴夫

2月25日㈯、日が暮れた午後5時30分頃、野田沢のキャンドル祭りが始まりました。

震災から2年目の冬、住民の「野田沢でキャンドル祭りをやらないか」という発案で始まったキャンドル祭りも今年で11年目。始まった当初は、野田沢有志で準備を進め、実施していましたが、今では野田沢公民館が中心となって企画・運営をしています。村制60周年の時には、イベント補助金を活用して盛大に実施しました。

キャンドル祭りでは、野田沢入口付近をメイン会場として、かまくらや雪像を造ります。野田沢には職人がたくさんいるので、毎年どのようなものが出来上がるのかと、住民の楽しみの一つでもあります。また、集落内道路の雪壁に横穴をあけ、野田沢から程久保までをキャンドルで灯します。

メイン会場では、女性が中心となって豚汁を作ったり、公民館役員が甘酒を出したりと、来てくれた方に振舞いました。

このイベントも過去に異例の少雪で1回、昨年のコロナ感染急拡大による自粛で1回、やむを得ず中止にしたことがあります。また、今年はコロナ感染者もずいぶん少なくなってきてはいますが、来場者を村民及び村在勤の方に限らせていただきました。なお、来年以降は親戚や知人、近隣市町村の方々にもおいでいただければと思いながら、地区住民のためにも継続していきたいと考えています。

一人の発案者と、そこに賛同した人々の力で実現される―。そうした活動が、栄村の元気につながっています。

公民館報 さかえ
第351号
令和５年３月１日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

スポット！

楽しい人生に趣味は欠かせない！家のことに百姓仕事、地区行事いろいろある。そんな日常の中で趣味を持ち、いきいき輝く方にスポット！その楽しさ・魅力を発信します。

地域おこし協力隊として、3年前に栄村にやってきた佐藤慎平さん（坪野）を取材してきました。

栄村に来て最初に感じたことは何ですか？

初めて栄村に来た時は3月末頃だったんですけど、雪がたっぷりあって、雪の多さというより、この田舎感に「すごいところに来ちゃったな」と思いましたね。

地域おこし協力隊の任期満了後、シェアハウス「とまりいえ」を開業したそうですがはじめようと思ったきっかけは？

単純に、移住仲間が少なかったので、人を呼べればいいなと思ったんです。学生時代に、バックパッカーとして東南アジアを回ったことがあり、海外じゃなくて、日本の田舎にパワーが向いてもいいんじゃないかなと思って。田舎に来たいと思っている人がいることもなんとなく感じていました。

1年間空きがないということですが、どのようにシェアハウス情報を発信していますか？

発信はツイッターです。協力隊任期中に活動内容をブログで発信し、閲覧者数何人と目標を掲げながら発信していたんですが、栄村情報を全面に出すより、田舎暮らしの内容を全面に出す方が、閲覧者数を獲得できることがわかりました。以後、自分や栄村のことを情報として出すのは最後。田舎暮らしPRで、自分も体験してみたいと利用される方が多いです。リピーターも多いですよ。

任期を満了しても栄村に住み続けようと思ったのはなぜですか。

栄村には暮らしを楽しめる可能性がたくさんあると感じているからですかね。

栄村に来た当初から「半農半X」な暮らしをしたいと思っていたんです。協力隊期間中、収入を得るほどの畑は難しいと感じました。1万円を稼ぐことの難しさ。自分の精神をすり減らすような仕事の仕方はせず、自分の食べる分を作る。なので、任期を満了しても何とかやっていけると思っていました。3年間の人のつながりを通して、様々な仕事のお話もいただいているし、3年間暮らしていると、様々な課題が見えてきて、それって仕事になるなと感じているものもある。

栄村の暮らしを楽しめる可能性があることは、シェアハウスの利用者数やリピーターがいることからも実証されていると思っています。

シェアハウスの利用者さんが栄村への定住につながった例もあるそうですね。定住には何が必要だと思いますか。

正直、過度な干渉はない方がいいかなと思います。相手が求めてきたときに差し伸べる程度で良いのかなと。何かをサポートしようとするよりは、自由になんでもできることに魅力があると感じているので、仕事は自分で作っていきたいと思っています。結婚させようとする雰囲気も嫌ですね。結婚するし、定職に就くというのが、当たり前だと思われている雰囲気はちょっと肩身が狭くなります。実際子どもができない家庭もあるだろうし、もっと多様な価値があることをわかってほしいなと思うことはありますね。

必要な時にサポートしてもらえるような体制があれば、こんなにいい場所はないと思っています。人もいいし、やさしいし。現在坪野に住んでいますが、この集落はめちゃくちゃポテンシャルがある。可能性を感じてます。

最後に今の想いを

こうした、里山や集落など村の環境を残していきたい。子どもには田舎暮らしの体験とか、田植え体験とかどんどんさせていきたいですね。これからも継続していくような村にしたいと思っています。

栄村風土記 ⑥

～永遠に残したい 栄村の暮らし～

時代の移り変わりとともに村民の暮らしも変容しています。ここでは、後世へと伝えたい、栄村の文化を紹介します。

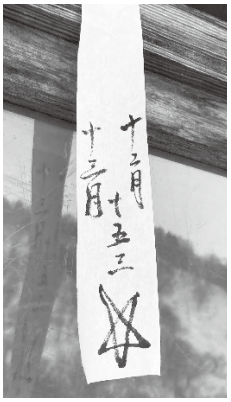
伝える信仰

極野集落には、窓や出入口などに「十二月、十三月、七五三☆」と書かれたお札のようなものが下げられています。不思議に思い、藤木吉栄さん（極野）を訪ねました。

「そのお札はさ、小正月の時に貼るんだけども。１月15日の小正月にはモグラモチをやったもんだ。前日の夜には家の周りの雪を踏んでおいてな。子供たちがヨコヅチ（ワラをたたく道具）を引っ張って家の周りを「モグラモチャドコイッタ　ヨコヅチャ　マイッタ　マイッタオコセバ　ドウツクゾー」と言いながら回ったもんだ。この時に入り口や窓など出入りできるところにそのお札を貼ってさ。お札には「十二月　十三月　七五三　☆」と書いてあるんだけども、十二月、十三月と書くことで、鬼や悪者が来た時に「この家にはまだ新年が来ていないんだ。帰ろう」と思わせたらしい。

☆印は五芒星（ごぼうせい）（平安時代の陰陽師のマークでもあり昔から魔除けの印として用いられているもの。）七五三の意味はわからねぇな。昔から当たり前のようにやってきたもんだから。最近は玄関に貼るぐらいだな。ヨコヅチ引っ張って回ることもなくなったし。あれは魔除けのお札だよ。あちゃ、他の集落じゃやってねぇかい？」

昔からの風習や行事を、面倒くさいと何かと簡素化される傾向のある昨今ですが、こういった物語的信仰が気持ちをホンワカさせ、何とも言えない良い雰囲気をかもし出してくれているのだなあと感じました。後世へと伝えていきたい伝統信仰ですね。（栄村誌の第６章民俗Ｐ５８３に記述があります。）



ばあのごっつぉ紹介します！

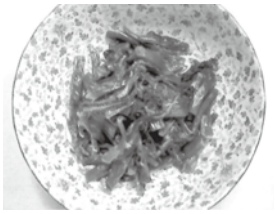
皆さんは、２月８日の「ことはじめ」や２月15日の涅槃会に、あんぼや耳だんごを作りましたか？今年は雪も少なくじょんのびだったのではないでしょうか。

雪が積もり始める前に漬けた野沢菜やたくあんもそろそろ酸味がききはじめる頃です。越冬野菜も余っていませんか？

栄村に残る食文化には、酸味のきいてきた漬物を煮たり、炒めたり…。春に残った大根は切り干し大根やみの干しにするなど、無駄なく食べる先人の知恵があります。他にも、天井焼きや天ぷらにしたり、たくあんは黒くなった味噌に漬けて夏のかてぜ用にしたりと、さまざまです。

先人達が知恵や技を駆使しながら、この自然環境の中であたりまえに暮らしてきたことを、今を生きる私たちが継いでいきたいと思いませんか？

漬け菜煮



☆**材　料**☆
- 野沢菜の漬物……適量
- 煮干し……多め
- 醤油……適量
- みりん又は酒……適量

☆**作り方**☆
①漬け菜を３㎝に切って、たっぷりの水に30分ほど浸し、塩だしする。
②①を水から上げて鍋にいれ、多めの水でやわらかくなるまで煮る。
③煮えたら味加減を見て、様子で調味料を足し、弱火で煮る。
④好みで赤唐辛子（鷹の爪）を入れて煮ると、味も日持ちも良くなる。
※野沢菜漬けの塩分と塩出しの加減で、調味料の分量が変わってくる

●**ここで紹介しているレシピは、「ばあのごっつぉうんめぇのし」に掲載されています。**

おらどこの「宝」の知識を深めよう

おら村の宝！ その6

栄村のそば

栄村のそばは他と何が違うの？

栄村のそばはオヤマボクチとふのりをつなぎとした独特なそばです。オヤマボクチをつなぎにした富倉そば（飯山市）、フノリをつなぎにした妻有そば（十日町市）はそれぞれ有名ですが、両方をつなぎにしているのは西大滝から津南町までの間といわれています。昔は「ごったく料理」として、冠婚葬祭などで振舞われていました。

東部の母ちゃんたちが生み出した栄村のそば「天神そば」ストーリー

平成４年（１９９２年）、世界そば博覧会（富山県）を開催するという話を聞いた髙橋彦芳氏（当時村長）が、「栄村にも独特なつなぎでおいしいそばがあるので出場する」と決めてきたのが始まりです。この蕎麦は東部地区の各家庭で伝わってきたこともあり、分量も様々。東部地区の母ちゃんたちに集まってもらい、何回も試作を繰り返してふのり・オヤマボクチ・水の分量だけでなく、このそばに合ったそばつゆも決めました。

「おら方のそばなんかお金もらって食べてもらうようなもんじゃねえ」と自信のなかった母ちゃんたちでしたが、村旗をイメージした緑のエプロンをつけて世界そば博で開店。しばらくすると栄村のテントに行列が！おいしさが口伝えに広がり１週間の期間中たくさんの人が食べてくれました。自信のなかった母ちゃんたちでしたが、閉店した時には、やり切った達成感と反響に肩を抱き合い感動の涙を流しました。

平成９年（１９９７年）北野天満温泉が開業することになり、料理には「栄村のそば」をメインに掲げ、「天神そば」と命名。平麺で少し歯ごたえのある、栄村でしか食べられない逸品の誕生です。

この蕎麦を継承し、再興しようと村栄養士と共にそば打ち教室を開催。農林高校そば班ＯＢにも声をかけ、その技術に期待を寄せつつ、栄村のそばを継承しようと動き始めています。

２月４日　そば打ち教室

栄村誌のココがおもしろい！ No.6

村誌第６節から秋山記行と秋山の習俗

地元の歴史を探る

阿部美代子さん

秋山に住んでいるので、自分の暮らす地域がどのように記されているのか気になり、村誌を手に取ってみました。

村誌第６章６節は、江戸時代に鈴木牧之が記した「秋山記行」を含めて秋山郷を紹介しています。ここでは、秋山集落や暮らしの様子が記されていますが、秋山の文化であるマタギについて触れてみたいと思います。

村誌には、江戸時代、マタギは鍋を２つ、３つ持ち、椀を人数分。食料は米と塩だけを持ち、山の中で岩魚や獣を捕まえて食べており、着る物も夜具も毛皮で、寝ござ一枚を持参したといいます。また、捕まえた岩魚や鹿、熊の肉を塩漬けにして草津へ売りに行っていたことが記されています。狩猟は秋田マタギによる狩猟が行われていたようですが、秋田マタギは江戸時代終わり頃から秋山に住みついたといわれています。

狩猟文化は、明治以降の近代化による現金収入の必要性や日本の軍事化によって、皮製品の需要が高まっていき、ウサギ、ムササビ、カモシカ、熊といった動物の狩猟が行われたといいます。

狩猟はムラごとに行われていて、和山は佐武流山、屋敷は鳥甲山、小赤沢は苗場山と狩猟場所が決まっていたようで、屋敷では熊の落とし穴、小赤沢では熊の追い込み猟と、地域ごとに狩猟の方法も異なっていたようです。

40年以上マタギをしていたという山田武雄さん（和山）に話を聞いてみると、武雄さんはムササビやテン、熊などを捕っていたそうで、動物の皮を売って生活ができたといいます。明治以降の皮製品の需要が武雄さんの時代まで高かったことが伺え、村誌に記されていることと、地元の方から教えてもらうことの両方を知ることで歴史が深まる面白さを感じました。

日々の生活の中で、地域の文化について改めて聞くことはなかなかありませんが、村誌をきっかけに、学びなおすことで、感慨深いものがあると感じています。

あーそんなことがあったんか　～ど先生の栄村昔語り～　其の五十五

『明治の千曲川通船計画（其の四）』

地域史料保全有志の会
鈴木 努（通称：ど先生）
イラスト作成：佐藤洋平

前回は難所を開鑿して信越の物流を舟で繋ごうともくろむ会社が立ち上がったことをお話ししました。会社では沿川の各地に入社と出資を勧誘していきます。森村ではそれにどう対処したか、残された古文書から見ていきたいと思います。

森の広瀬家には会社からの働きかけ等を記す史料が三点あります。二点は森村の内部で村人が協議して作った定約書で、罫紙に清書して紙縒りで綴じたものと下書きです。残る一点も下書きで、こちらは文言から開鑿会社と協議した定約書と思われます。前回までに紹介した「規則」が明治十一年十月、フランス人の巡検が同五月ですから、その約半年間に協議が行われた模様です。

森村と会社との定約は、字川尻河岸に支店を設立し、照岡村内の藤沢組支店（現飯山市）から新潟県芦ヶ崎までの間は当社名義の支店などを作らせないこと（第一条）、支店設立にあたり森村は五株を引き受け五百円を払って会社に加入すること（第二条）、森村には五株の株券が渡されるが、うち一株分・百円を当座払い込み、残額は工事が成功したら一割の制限利子（法定の上限以内の利子）付きで出金すること（第三条）、出資により当社発起名に加入されるので役員選挙・被選挙人となること（第四条）というもので、既に測量がほぼ成功する見込みであり、万一事業が中折しても株金以上の負担はかけない、と言っています。

会社の事業に村を挙げて協議が必要だったのはなぜか。次に村内の定約書をみてみましょう。

会社との定約に先立ち、村内では会社の照会（支店・株金）についての対処を協議しました。そして支店設立を許す上での条件を取り決めます。八か条の定約書は入社金（株金）百円を百本に分け、連名に記載した通りに出すこと（第二条）、出金者は村の将来の利益のために私利を抛って出すのだから、会社から村に人馬賃銭などが出たら一割をプールしておき、出金者への配当に当てること（第四条）、沢尻河岸に支店を置くと決まった以上、会社からこの件で照会がある時に故障めいたことを言わないこと（第五条）、広瀬又四郎・同寛蔵が名義上入社するが、何か決定する時は必ず村中に協議すること（第七条）、開鑿事業に費途が生じたり入社金が集まらない時は村の協議費（町村の経費）から支弁すること（第二・八条）という内容です。つまり、入社のために村が費用負担をする、そのため協議を要したのでしょう。当時の北信村森組の地租額が総計二八七円余だったのと比べても、百円はかなりの大金です。

負担をしのんで村が入社する理由が、第一条に記されています。そこには「開鑿事業の成否は判然としないが、もし完成したら陸路の運輸は昔日のようにはいかず、当村のような運輸を活業とする駅は生計の途を失うだろう。いま支店設立の話を受けなければ輸物の減少を償うすべはなく、入社しなければ支店を置くことはできない。村の将来の利益のためには株金百円を払って入社すべきである」と書かれています。また下書の方には、千曲川開鑿が輸物の減少につながると懸念していたところに支店設置の話があり、「いま入社してもすぐ利益が出ないだけでなく、原資を失うとも限らない」が後来のため会社への加入を決めた、とあります。村内の定約書第六条には「株の利益金配当は出金者特有の権利であり、出資しなかった者には無関係である」と記し、費用負担をめぐって意見が分かれた様子が窺えます。会社のその後はよくわからず、事業も完成しなかったと思われます。

明治時代に宿場町などが鉄道に反対した「鉄道忌避」は、ほとんどが伝説にすぎず、むしろ鉄道誘致に積極的な地方が多かったといわれています。森村の事例も開化への期待と変化への恐れが見られ、栄村にとっての近代とは何だったかを知る手がかりといえます。

村内向け定約書（広瀬家文書）

栄村公民館 図書室だより

2023.3

今年の春分の日は３月21日です。内閣府のホームページには『自然をたたえ、生物をいつくしむ』日と書かれています。この日は昼夜の長さが等しく、「自然のあらゆる生命が若々しく盛り上がる時」が理由のようです。

水仙が咲き、虫が飛び交い、ふきのとうが食卓に上がる…栄村も待ち遠しかった春の訪れを感じるいい時期になりますね。

冬期間村内移動図書巡回、あと1か月です！

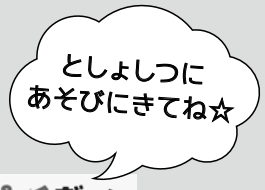
12月から巡回を始めた村内移動図書は、すでにのべ120名の方にご利用いただいています。

大きな文字の本や、お料理の本などもご用意しています。こたつに入って読書しませんか。巡回時間が不明な方は公民館図書室☎87-3118までお問い合わせください。

西部・豊栄・水内	秋山・東部
3 / 2 ㈭	3 / 3 ㈮
3 /16㈭	3 /17㈮
3 /30㈭ 返却のみ	3 /31㈮ 返却のみ

新着図書の紹介

白鳥とコウモリ（東野圭吾）／さよならの儀式（宮部みゆき）／燕は戻ってこない（桐野夏生）
地図と拳（小川 哲）／総理の夫 First Gentleman 愛蔵版（原田マハ）／ 80歳の壁（和田秀樹）
ジャクソンひとり（安堂ホセ）／光のとこにいてね（一穂ミチ）／クロコダイル・ティアーズ（雫井脩介）
しろがねの葉（千早 茜）／汝、星のごとく（凪良ゆう）／ 母という呪縛 娘という牢獄（齊藤 彩）
silent　シナリオブック　完全版（生方美久／脚本）／女人京都（酒井順子）
一気読み世界史（出口治明）／運動脳（アンデシュ・ハンセン／御舩 由美子・訳）
カルトの花嫁：宗教二世 洗脳から抜け出すまでの20年（冠木結心）
COCOCORO大西哲也の神だれ∞レシピ（大西哲也）
１週間で勝手に痩せていく体になるすごい方法（栗原 毅）
世界一簡単な しないレシピ　元シェフが教える、プロのこっそり手抜き術（ちひろ）他



えほん

ラッキーカレー（シゲタサヤカ）
こんたのさかなつり（田中友佳子）
へんなどうつぶ（ワンダ.ガアグ／渡辺茂男・訳）
わにわにのおふろ（小風さち・文／山口マオ・絵）
オニのサラリーマン じごくの盆やすみ
（富安陽子・文／大島妙子・絵）

★３・４・５月休館日★

３月21日㈫、４月29日㈯、30日㈰
５月３日㈬～７日㈰

★栄村図書室開放時間★

平　日　午前８時半～午後５時
土・日　午前９時～正午
※祝日は休館します

★図書ボランティア募集中！★

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。この春からやってみませんか。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。１～２か月に１度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局☎87-3118までお願いします。

お知らせ

借りたままになっている本はありませんか。どうしても図書室まで来られない方は公民館☎87-3118までご相談ください。

村民広場

宮川春菜さん（野田沢）

栄村に帰ってきて６年が経ちました。６年の間に３匹の愛猫が家族に加わり毎日、愛猫に癒されながら過ごしてます。

私は飯山で接客業をしているのですが、村の中だけでなくお買い物に来てくれた時にも栄村の人達は気さくに声をかけてくれます。そのちょっとした事が自分にとってはとても嬉しくて、こっちに帰ってきて改めて栄村の人達の優しさと温かさを実感してます。

おおきくな〜れ

ロータリー除雪車の
運転手さんになりたい！

奏志（そうし）さん（６歳）

スキーに剣道に夢中の奏志。道路標識も完璧に覚えて大人顔負けの一面も。年長さんになってからは、お兄ちゃんの姿になり、成長をとても嬉しく思います。思いやりを持って笑顔いっぱい・健やかに成長してね。

森下たえさん宅（柳在家）

ようこそ！ 栄村へ!!

齋藤宏樹 さん（横倉）

Q１　栄村へ移住しようと決めた理由は？

Ⓐ小さいころから山を駆けずり回っており、父方が坪野出ということもあって、自然豊かな栄村に住みたいと以前より思っていました。

Q２　栄村に住んで感じることは

Ⓐ皆さんとても親切で、お世話になっております。自然との距離が近く、窓を開けるとフクロウやキツネの鳴き声が聞こえてきたり、自分が住みたかった場所と合致していると思う。

Q３　これからどのように過ごしていきたいですか？

Ⓐ移住して、２年目に入りますが、あまり多くを望まず、できることから一歩ずつ、時には皆さんと協力して暮らしていけたらなと思います。

お客さんとの交流から生まれた漬物セット

「農産物を『からし漬けセット』と面白い工夫で販売している方がいる」という話を聞きつけ、販売者の保坂幸子さん（泉平）に漬物セットについて取材してきました！

『からし漬けセット』は道の駅の雁木下で汁物や野菜を販売していた頃、炊いたご飯にちょこっと添えて出していた季節の漬物の一つでした。お客さんから「その漬物を売ってくれ」と言われることが何度かあったんですが、食品衛生法の関係で販売することができなかったので、何年もお客さんに謝りながらレシピを教えていました。どうしたら販売できるか相談してひらめいたのが、刻んだ野沢菜に、オリジナルで考案した分量で調味料を併せた「からし漬けの素」をセットする方法でした。この『からし漬けセット』は今年で7年目。今では電話注文が来て宅配便で買ってくれるお客さんもいます。今年はレシピを付けた醤油漬け用も販売してみました。夏には、きゅうり1キロにからし漬けの素をつけて販売。こちらも評判です。自家製米を購入してくれたお客さんに「お気持ち」として漬物セットを添えていたら、そのままファンになってくれた方もいたんです。

私は栄村でやる農業が好きなんです。冬休めるから。これからは農業をしながらゆっくり生活したいと思っていて、今ようやくその生活が出来ています。

地震の後、きのこ小屋を改装してお茶のみできる部屋にしました。今は週に一度、お豆腐屋さんが売りに来る日に、近所の人がここに集まってお茶のみを楽しんでいます。本当はカフェができたらいいなと思うんだけど…。嫁に来た頃みんなにお世話になったから、集落のみんなを楽しませたいなと思っています。

今月の一句 ～栄村俳句会～

チョコ一つ含みて朝の雪を掻く　関谷貞子

写真整理遅々とすすまず春の雪　関谷貞子

春の海鳥浮かぶよなサーファー等　柳静江

荒らぶる世春の光よ耐えし人等に　柳静江

あるじなき家の庭先雪五尺　山田くにえ

早朝の除雪の音に手をあわせ　山田くにえ

道踏みを終えてニュースは春一番　杉浦恵子

雪空に響く篠笛早春賦　杉浦恵子

令和５年度の総合文化祭は節目の第45回！

文化祭は村民みんなの発表の場です。

ステージ発表や展示など、今から準備をはじめよう！今年は２日間で開催予定！特別企画も計画中。

編集後記

雪の世界の栄村と気温25℃半袖半パンの沖縄県多良間村の子どもたちがオンライン交流をした。かまくらの中で見る多良間村のブルーな空、コバルトブルーの海、緑の草木がキレイだ。こちらからは「自然な雪の中で遊ぶ楽しさを見て！」「家の屋根の形はね」「雪を解かすタネが家の周りにはあるんだ」など分かりやすく雪国の暮らしをしっかり伝える子どもたち。任せて大丈夫だね、とうれしくなりました。それにしても情報環境の進化に感心するばかりだ。（正）